

バプテスマを受けた後も「新しい人格」を身に着ける努力を続ける

「新しい人格を身に着けましょう」。コロサイ 3:10 新しい人格を身に着けましょう。新しい人格は、それを与えてくださる(*創造した)神の性質に沿って、正確な知識によって新しくされていきます。

49 番の歌 日々エホバに喜んでいただく

何を学ぶか*これまでどんな生き方をしてきた人も、「新しい人格」を身に着けることができます。 そうするためには、引き続き考え方を調整し、イエスのような人になることを目指す必要があります。 この記事では、考え方や行動に関するイエスの手本を取り上げます。 また、バプテスマを受けた後もイエスに倣う努力を続けるために何ができるかも考えます。

1. どんなものが、人格に大きな影響を与えますか。

バプテスマを受けたのが最近であっても、何十年も前であっても、私たちは皆、エホバに喜ばれる人格を身に着けたい、と思っています。そのためには、考え方をコントロールする必要があります。なぜでしょうか。どんなことを考えるかは、人格に大きな影響を与えるからです。罪深い欲望を刺激するようなことをいつも考えているなら、良くないことを言ったり行ったりしてしまうでしょう。 (エフェ 4:17-19 それで、私は主によって語り、勧めます。もうクリスチヤンではない人々のように、むなしの考えに従って歩んではなりません。 18 彼らは思考が闇に覆われていて、神による命から遠く離れています。神について知ろうとせず、心が無感覚だから(d*鈍くなっているから)です。 19 道徳感覚がまひしていて、恥知らずな行い(*^ギ語アセ^ギイ)にふけり、あらゆる汚れた事柄を貪欲なまでに行います) 一方、良いことをいつも考えているなら、言葉や行動はお父さんエホバに喜ばれるものとなるでしょう。 (ガラ 5:16 次のこと勧めます。聖なる力に導かれて歩んでください。 そうすれば罪深い欲望のままに行動することは決してありません)

2. この記事では、どんなことを考えますか。

2 前の記事で考えた通り、思いの中から良くない考えを一切締め出すことはできません。 それでも、こうした考えに基づいて行動しないようにすることはできます。 私たちはバプテスマを受ける前に、エホバが嫌う話し方や行動をやめなければなりません。 これは、古い人格を脱ぎ捨てるための重要な第一歩です。 とはいえ、エホバに十分に喜んでいただくためには、「新しい人格を身に着けましょう」という命令に従う必要があります。 (←コロ 3:10) この記事では、次の点を考えます。 ①「新しい人格」とは何ですか。 ②どうすれば新しい人格を身に着け、それを良い状態に保つことができますか。

「新しい人格」とは何か

3. 「新しい人格」とは何ですか。どうすれば、それを身に着けることができますか。 (ガラテア 5:22, 23)

3 「新しい人格」を身に着けている人は、エホバに倣った考え方や行動をします。さらに、聖なる力が生み出すものを表し、考え方や感じ方や行動が聖なる力に導かれるようにします。 (ガラテア 5:22, 23) 一方、聖なる力(*)が生み出すもの(d*実)は、愛、喜び、平和、辛抱強さ、親切、善良、信仰、23 温和、自制です。このようなものを否定する律法はありませんを読む。) 例えば、エホバやエホバに仕える人たちに愛を示します。 (マタ 22:36-39) 『あなたは、心を尽くし、知力を尽くし、自分の全てを尽くして、あなたの神エホバを愛さなければなりません』。 38 これが最も重要な第一のおきてです。 39 第二も同様で、こうです。『あなたは隣人を自分自身のように愛さなければなりません』) 試練にぶつかっても、喜びを保ちます。 (ヤコ 1:2-4) 私の兄弟たち、さまざまな試練に遭う時、それを喜ばしいことと考えましょう。 3 ご存じの通り、そのようにして信仰の質が試されると、忍耐力が身に付くからです。 4 忍耐するのをやめないでください。忍耐がその役割を果たす時、皆さんは完全になります、全ての点で健全な、欠けたところがない人になります) そして、平和をつくる人です。 (マタ 5:9) 平和をつくる人たちは幸福です。神の子と呼ばれるからです) 人と接する時に、辛抱強さや親切を示します。 (コロ 3:12, 13) 皆さんは神に選ばれ、神に愛される聖なる人たちですから、温かい思いやり、親切、謙遜さ(*自分を低く見る考え方)、温和、辛抱強さを身に着けましょう。 13 引き続き互いに我慢し、寛大に許し合いましょう。たとえ誰かに不満を感じるとしてもです。エホバ(*)が寛大に許してくださったのですから、同じようにしなければなりません) 善良なことを愛し、行います。 (ルカ 6:35) かえって、敵を愛し続け、善を行い続け、返してもらうことを期待せずに貸すことを続けなさい。そうすれば、報いは大きく、あなたたちは至高者の子となります。神は感謝しない悪人にも親切なのです) 天のお父さんエホバへの強い信仰を行動で表します。 (ヤコ 2:18) ある人はこう言います。「行動を別にしたあなたの信仰を見せてください。) ひどいことをする人に対しても温和に接し、誘惑されても自制を示します。 (ヨハネ 9:25) 競技に参加する人(*運動選手)は皆、どんなことについても自制します。もちろん、そのようにして彼らが得ようとするのは朽ちる冠ですが、私たちの場合は朽ちない冠です。 27 自分の体を打ちたたき(*処罰し/厳しく訓練し)、奴隸にして従わせます。人々に伝道しておきながら、私自身が何かのことで退けられない(*失格にならない)ためです。 (テト 3:2) 誰のことも悪く言わず、争いを好まず、分別を働くかせ、誰に対してもいつも温和に接することです)

4. 新しい人格を身に着けるために、ガラテア 5 章 22, 23 節などにある性質をどれも身に着ける必要がある、と言えるのはなぜですか。

4 新しい人格を身に着けるためには、ガラテア 5 章 22, 23 節 一方、聖なる力(*)が生み出すもの(d*実)は、愛、喜び、平和、辛抱強さ、親切、善良、信仰、23 温和、自制です。このようなものを否定する律法はありませんやほかの聖句に挙げられている性質をどれも身に着ける必要があります。 *聖なる力が生み出す良い性質は、ガラテア 5 章 22, 23 節に挙げられているものだけではありません。この点については、「ものの塔」2020年6月号の「読者からの質問」ほかの性質も身に付ける必要があります。新しい人格は「神の意志に沿って形作られるものであり、本当の正しさと忠実さに基づいています」をご覧ください。 これらの性質は、切り離して考えることができるものではなく、密接に関係し合っています。 例えば、隣人を心から愛する人は、辛抱強く、親切に接します。また、本当の意味で善良な人になるためには、温和や自制を示す必要があります。

どうすれば新しい人格を身に着けられるか



イエスの考え方を倣うなら、イエスのような人になることができる。（5, 8, 10, 12, 14 節を参照。）

5. ①「キリストの考え方を知」るとはどういうことですか。②イエスの生き方について学ぶとよいのはなぜですか（コリ一2:16）

5 コリント第一 2:16 「エホバ(*)の考え方を知るようになって、その方を教えられる人などいるでしょうか」。とはい、私たちはキリストの考え方を知って(*と同じ考え方をして)いますを読む。新しい人格を身に着けるためには、「キリストの考え方を知」る必要があります。つまり、①イエスの考え方について学び、それに倣う必要があるということです。②イエスは、聖なる力が生み出すものを完璧に表しています。傷のない鏡のように、エホバの性質を完璧に反映しているのです。（ヘブ 1:3 神の子は、神の榮光を反映し、神の本質を完全に表していて、）私たちは、イエスのような考え方ができるようになるにつれて、イエスのように行動し、イエスのような人格を身に着ける点で、いっそう進歩していくでしょう。（フィリ 2:5 キリスト・イエスと同じ考え方をしてください）

6. 新しい人格を身に着けようと努力する時、どんな点①②③を考えるのはよいことですか。

6 それでも、「イエスの手本に倣うことなんてできるんだろうか」と思うかもしれません。「完全なイエスのようになることなんてできない」と感じるのであります。もしそうであれば、次の3つの点を考えてみましょう。①1番目に、私たちはエホバとイエスに似た者として造られています。ですから、私たちはある程度、エホバとイエスに倣うことができます。（創 1:26 私たちに似た者として人を造ろう）②2番目に、神の聖なる力は宇宙で最も強い力です。それで、聖なる力の助けがあれば、自分の力ではできないことも行うことができます。③3番目に、エホバは今、聖なる力が生み出すものを完璧に示すよう、私たちに求めてはいません。愛情深いお父さんであるエホバは、地上で永遠に生きる希望を持つ人たちが、1000年間をかけて完全な人になれるようにしてくださいます。（啓 20:1-3 1000年が終わるまで竜がもはや人々を惑わさないようにした）エホバが今求めているのは、私たちができる限りのことを行い、助けを求めてエホバに頼ることです。

7. これからどんな点①②を考えますか。

7では、どうすればイエスの手本に倣うことができるのでしょうか。これから、①聖なる力が生み出すものの4つの面を取り上げます。イエスがそれぞれの性質をどのように示したか、考えてみましょう。そして、②新しい人格を身に着けるために、幾つかの質問を使って自分を分析してみましょう。

8. イエスはどのように愛を示しましたか。

8 イエスは、お父さんエホバを心から愛していました。それで、エホバと私たち人間のために進んで犠牲を払いました。（ヨハ 14:31 私が父を愛していることを世の人々が知るために、父が命じた通りにしています；15:13 友のために自分の命をなげうつこと、これより大きな愛はありません）イエスの生き方を見れば、イエスが人々を深く愛していたことが分かります。例えば、イエスは反対されても愛や思いやりを毎日示しました。王国について教えました。（ルカ 4:43 「私はほかの町にも神の王国の良い知らせを広めなければなりません。そのために遣わされたからです」、44）神と人々を愛していたので、罪人の手に掛かって苦しみながら死ぬことを受け入れました。そのおかげで、私たち全てはいつまでも生きる希望を持つことができるようになりました。

9. 愛を示す面で、どのようにイエスに倣えますか。

9 私たちは天のお父さんエホバを愛しているので、エホバに献身し、バプテスマを受けました。ですから、私たちもイエスと同じように、人々を愛することによってエホバへの愛を示す必要があります。ヨハネも、「自分が見ている兄弟を愛さない人は、見たことがない神を愛することはできない」と書きました。（←ヨハ一 4:20）次のように考えてみましょう。「①自分は人々を深く愛するよう努力しているだろうか。②失礼な態度を取る人に対しても、思いやりを持って接しているだろうか。③愛の気持ちから、自分の力やエネルギーなどを用いて、エホバについて知る人々を助けているだろうか。④ほとんどの人に喜ばれないとしても、あるいは反対されるとしても、伝道を続けるだろうか。⑤人々を弟子とする活動にもっと多くの時間を用いることができないだろうか」。（エフェ 5:15, 16 自分の歩み方をしっかり見守りましょう。賢くない人ではなく賢い人のように歩み、16 時間を有効に使って(*良い時を買い取って)ください）

10. イエスは平和をつくるためにどんなことをしましたか。

10 イエスは平和をつくる人でした。①誰かから悪いことをされても、決して仕返しをしたりはしませんでした。それどころか、②平和をつくるために自分から行動し、言い争うのをやめるよう人々を教えました。例えば、2-1 エホバに崇拝を受け入れてもらうためには、まず仲間と仲直りする必要があると言いました。（マタ 5:9 平和をつくる人たちは幸福です。神の子と呼ばれるからです、23, 24 あなたが供え物を祭壇に持ってきて、仲間が自分に対して何か反感を抱いていることをそこで思い出したら、24 供え物を祭壇の前に残して、出掛けていきなさい。まず仲間と仲直りし、それから戻ってきて、供え物を捧げなさい）また、2-2 誰が一番偉いかについて言い争うのをやめるよう、使徒たちを何度も助けました。（ルカ 9:46-48 弟子たちの間で、自分たちの中で誰が一番偉いかという議論が起きた。47 イエスは弟子たちの心の中の考えを知り、幼い子供を自分の脇に立たせ、48 こう言った。「私の名のためにこの幼い子供を受け入れる人は、私をも受け入れます。そして、私を受け入れる人は、私を遣わした方をも受け入れます。あなたたちの間で

より小さな者として行動する人こそ偉いのです」; 22:24-27 ところが、自分たちの中で誰が一番偉いのかについても激しい議論が起きた。25 しかしイエスはこう言った。「国々の王は威張り、権威を持つ人たちは善行者と呼ばれます。26 しかし、あなたたちはそうであってはなりません。あなたたちの間で一番偉い人は一番若い人のように、教え導く人は奉仕する人のようになりなさい。27 というのは、食事をして(*食卓で横になって)いる人と給仕している人では、どちらが偉いですか。食事をして(*)いる人ではありませんか。しかし私は、あなたたちに仕える人です)

11. 平和をつくるために、どんなことができますか。

11 平和をつくる人になるためには、言い争いを避けるだけでは十分ではありません。自分の方から仲直りすることや、仲たがいをしている人に仲直りするよう励ますことが必要です。 (フィリ4:2, 3 ユウオデアとスントケに勧めます。主と結ばれた人として、同じ思いを持ってください。3 共に忠実に働く仲間であるあなた(特定の兄弟のことと思われる)にもお願いします。この女性たちを今後も援助してください。2人は、クレメンスやほかの仲間たちと一緒に、良い知らせを広めるために私と肩を並べて一生懸命働いて(*苦闘して)きました。ヤコ 3:17, 18 一方、天からの知恵を持つ人は、第一に清く、次いで平和を求める、分別があり、進んで従い、憐れみと良い實に満ち、差別をせず、偽善的ではありません。18 さらに、正しさの実は、平和をつくり出している人たちのために(if*によって)、平和な状態の中でまかれた種から生じます) 次のように考えてみましょう。 「①自分は、何かの犠牲を払ってでも仲直りしようとするだろうか。②兄弟姉妹から傷つけられた時、恨みの気持ちを持ち続けるだろうか。③相手が謝ってくるまで何もしないだろうか。④それとも、相手が悪いと思える時にも、自分の方から仲直りしようとするだろうか。⑤ふさわしい時には、仲たがいをしている人たちに、仲直りするよう励ますだろうか」。

12. イエスはどのように親切を示しましたか。①②

12 イエスは親切な人でした。 (マタ 11:28-30 疲れていて(if*労苦し/悪戦苦闘し)、荷を負い切れない人は皆、私の所に来てください。そうすれば、爽やかにしてあげましょう。29 私と共に働いて、私から学んで(*私の弟子(私から学ぶ人)になって)ください。私は温和で、謙遜だからです。あなたたちは爽やかさを感じるでしょう。30 私と共に働くことは心地よく(*私のくびき(てんびん棒)は負いやすく)、私が負わせる荷は軽いのです) それで、①難しい状況でも、人に優しく接し、柔軟さを示しました。例えば、フェニキア人の女性から、娘を癒やしてほしいと言われた時、イエスはどうしたでしょうか。初めは、(AD36年までのイスラエルへの恵の期間が終わっておらず)女性の言葉に応じませんでしたが、女性の大きな信仰を見て、親切に娘を癒やしました。 (マタ 15:22-28 その地方のフェニキア人女性が来て、「主よ、ダビデの子よ、憐れみをお掛けください。娘が邪悪な天使に取りつかれ、ひどく苦しめられています」と叫んだ。23 しかしイエスは、一言も答えなかった。それで弟子たちが来て、言った。「この女性を追い払ってください。後に付いてきて、ずっと叫んでいます」。24 イエスは答えた。「私は、イスラエル国民の迷い出た羊の所にしか遣わされません」。25 しかし女性は来て、イエスに敬意を表し、言った。「主よ、お助けください!」 26 イエスは答えた。「子供たちのパンを取って小犬に投げ与えるのは正しくありません」。27 女性は言った。「そうです、主よ。けれど、小犬も主人の食卓から落ちるパンくずを食べます」。28 そこでイエスは言った。「素晴らしい信仰です! あなたの願う通りのことが起きますように」。すると、娘はその時、癒やされた) ②イエスは親切な人でしたが、感情に流されることはありませんでした。自分が愛する人に毅然とした態度で助言を与えることによって、親切を示したこともあります。例えば、イエスがエホバのご意志を行うのをペテロがやめさ

せようとした時、イエスはほかの使徒たちがいる所でペテロを叱りました。（マル 8:32, 33 ところが、ペテロはイエスを脇に連れていって叱り始めた。33 イエスは向きを変え、弟子たちを見ながらペテロを叱り、「私の後ろに下がれ、サタン！ あなたは、神の考えではなく、人間の考えを抱いています」と言った）イエスがそうしたのは、ペテロに恥をかかせるためではなく、ペテロを教え、出過ぎたことをしないよう弟子たちに警告するためでした。ペテロは多少恥ずかしい思いをしたかもしれません、大切なことを学ぶことができました。

13. 本物の親切を示すために、どんなことができますか。

13 家族や友人に本物の親切を示すためには、助言を与えなければならないこともあります。そういう場合には、イエスに倣って、聖書に基づいて語る必要があります。優しく接しましょう。「あの人には正しいことを行いたいと願っているに違いない。エホバや私を愛しているので、親切に助言するなら、きっと快く受け入れてくれる」と信じましょう。次のように考えることができます。「①家族や友人が間違ったことをしていることに気付いたなら、勇気を持って注意するだろうか。②助言が必要な場合、親切な話し方をするだろうか。それとも、厳しい話し方をしてしまうだろうか。③動機はどうだろうか。腹立ち紛れに助言しているだろうか。それとも、その人を本当に助けたいという気持ちで助言しているだろうか」。

14. イエスはどのように善良さを示しましたか。

14 イエスは何が善いことかを知っていただけでなく、それを実行しました。イエスはエホバを愛しているので、正しい動機で善いことを行いました。善良な人は、どうすれば人の助けになれるかということをいつも考え、それを実行します。何が善いことかを知っているだけでは、十分ではありません。正しい動機で善いことを行う必要があります。とはいえ、間違った動機で善いことを行うことなどあるのでしょうか。あります。例えばイエスによると、当時の人の中には、貧しい人に施しをした上で、そのことが人々に知られるようにする人がいました。こうした行いは、善いものに見えたかもしれません、エホバの目には全く価値のないものでした。（マタ 6:1-4
注目されようとして人前で善行をすることがないように注意しなさい。そうでないと、天にいる父からの報いはありません。2 それで、憐れみの施しをするとき、偽善者たちが人から称賛を受けようとして会堂や街路でするように、施す前にラッパを吹いてはなりません。はっきり言いますが、その人たちは報いを全部得てしまっています。3 憐れみの施しをするときには、右手がしていることを左手に知らせてはなりません。4 憐れみの施しをひそかにするためです。そうすれば、ひそかに見ている父が報いてくださいます）

15. どうすれば、本当の意味で善良さを示せますか。

15 本当の意味で善良さを示すためには、自分ではなく人のことを考えて善いことを行う必要があります。次のように考えてみましょう。「①自分は、何が善いことかを知っているだけでなく、それを実行しているだろうか。②自分が善いことを行うのは、どんな動機でだろうか」。

どうすれば新しい人格を良い状態に保てるか

16. 私たちは毎日どんな努力をする必要がありますか。なぜですか。

16 新しい人格を身に着けるための努力はバプテスマを受けた時に終わる、と考えてはいけません。この“新しい服”を良い状態に保つ必要があります。そうするための1つの方法は、聖なる力が生み出すものを表すよう、毎日努力することです。なぜそう言えるでしょうか。エホバは行動する神であり、その行動には聖なる力が関係しているからです。（創1:2 地は荒れていて何もなかった。深い水(*波立つ水)の上に闇があった。神が送り出す力(*神の聖なる力)が水の上を動いていた）それで、行動が大切です。ヤコブも、「行動が伴わない信仰[は]死んでいるのです」と述べています。（ヤコ2:26 生命力(*息)のない体が死んでいるのと同じように、行動が伴わない信仰も死んでいるのです）聖なる力が生み出すもののほかの面についても同じことが言えます。私たちはこうした性質を表す時、聖なる力に導かれていることを示しているのです。

17. 聖なる力が生み出すものを表す面で失敗してしまった場合、どうしたらよいでしょうか。

17 バプテスマを受けてから何年たっている人であっても、時には聖なる力が生み出すものを表す面で失敗してしまうことがあります。それでも、大切なのは諦めないことです。例えで考えてみましょう。お気に入りの服が破れてしまった場合、それをすぐに捨ててしまうでしょうか。そんなことはしないはずです。何とかして、破れた所を直そうとするでしょう。そして、その後は破れないようにいっそう注意するはずです。同じように、親切や辛抱強さや愛などを示し損なってしまうことがあるとしても、落ち込まないでください。心から謝るなら、相手との良い関係を取り戻すことができるでしょう。そしてその後は、聖なる力が生み出すものを表す面でいっそう努力しましょう。

18. 自分にできることを精一杯行うなら、どんなことを期待できますか。

18 イエスが素晴らしい手本を残してくれていることに本当に感謝できるのではないでしょうか。私たちは、イエスと同じような考え方をするなら、イエスに倣った行動ができるようになります。そして、イエスに倣った行動をするなら、新しい人格を身に着ける面で成長できるでしょう。この記事では、聖なる力が生み出すもののうち、4つの面だけを考えました。残りの面についても、時間を取って調べ、「こうした性質を示す面で自分はどうだろうか」と考えてみましょう。役立つ資料が、「エホバの証人のためのリサーチガイド」の「クリスチャン生活」という事項の「靈の実」という項目に挙げられています。私たちが自分にできることを精一杯行うなら、エホバは私たちが新しい人格を身に着け、それを良い状態に保てるよう助けてくださいます。

覚えていますか

I. 「新しい人格」とは何ですか。

- ・S03 「新しい人格」を身に着けている人は、エホバに倣った考え方や行動をします。さらに、聖なる力が生み出すものを表し、考え方や感じ方や行動が聖なる力に導かれるようにする。例えば、①エホバやエホバに仕える人たちに愛を示し、②試練にぶつかっても、喜びを保ち、③平和をつくる人、④人と接する時に、辛抱強さや親切を示し、⑤善良なことを愛して行い、⑥エホバへの強い信仰を行動で表わし、⑦ひどいことをする人に対しても温和に接し、⑦誘惑されても自制を示します
- ・S04 ガラテア5章22、23節の聖なる力が生み出すものだけに限らず、どれも身に着ける必要がある

II. どうすれば、新しい人格を身に着けられますか。

- ・S05 イエスの考え方について学び、それに倣う必要がある。イエスのような考え方ができるようになるにつれて、イエスのように行動し、イエスのような人格を身に着ける点で、いっそう進歩できる
- ・S06 完璧にイエスの手本に倣うことが出来ないと感じても、積極的に努力を続けるべき。エホバが今求めているのは、私たちができる限りのことを行い、助けを求めてエホバに頼ることであることを忘れない。
- ・S07 聖なる力が生み出すものの面を取り上げ、イエスがそれぞれの性質をどのように示したか、考え、幾つかの質問を使って自分を分析する
- ・S09(愛) 次のように考えてみる「①自分は人々を深く愛するよう努力しているだろうか。②失礼な態度を取る人に対しても、思いやりを持って接しているだろうか。③愛の気持ちから、自分の力やエネルギーなどを用いて、エホバについて知るよう人々を助けているだろうか。④ほとんどの人に喜ばれないとしても、あるいは反対されるとしても、伝道を続けるだろうか。⑤人々を弟子とする活動にもっと多くの時間を用いることができないだろうか」
- ・S11(平和) 次のように考えてみる「①自分は、何かの犠牲を払ってでも仲直りしようとするだろうか。②兄弟姉妹から傷つけられた時、恨みの気持ちを持ち続けるだろうか。③相手が謝ってくるまで何もしないだろうか。④それとも、相手が悪いと思える時にも、自分の方から仲直りしようとするだろうか。⑤ふさわしい時には、仲たがいをしている人たちに、仲直りするよう励ますだろうか」
- ・S13(本当の意味での親切) 次のように考えてみる「①家族や友人が間違ったことをしていることに気付いたなら、勇気を持って注意するだろうか。②助言が必要な場合、親切な話し方をするだろうか。それとも、厳しい話し方をしてしまうだろうか。③動機はどうだろうか。腹立ち紛れに助言しているだろうか。それとも、その人を本当に助けたいという気持ちで助言しているだろうか」
- ・S15(本当の意味での善良さ) 次のように考えてみる「①自分は、何が善いことかを知っているだけでなく、それを実行しているだろうか。②自分が善いことを行うのは、どんな動機でだろうか」

III. 新しい人格を良い状態に保つために、どんなことができますか。

- ・S16 聖なる力が生み出すものを表すよう、毎日努力する
- ・S17 時には聖なる力が生み出すものを表す面で失敗してしまうことがあります。それでも、大切なのは諦めないこと。心から謝るなら、相手との良い関係を取り戻すことができる。そしてその後は、聖なる力が生み出すものを表す面でいっそう努力する
- ・S18 自分にできることを精一杯行うなら、エホバは私たちが新しい人格を身に着け、それを良い状態に保てるよう助けてくださる

127 番の歌 私はどんな人になるべきだろうか

^ (コロ 3:10) 新しい人格を身に着けましょう。新しい人格は、それを与えてくださる*神の性質に沿って、正確な知識によって新しくされていきます。

または、「創造した」。